

2023 ミス日本「海の日」 稲川夏希さん

◆夏希の休日 第1回

子どものころから慣れ親しみ、海の雄大さと力強さを肌で感じた東京湾

相模湾から三浦半島の反対側に行くためには「剣崎」という潮目がかなり激しいスポットを通りなくてはなりません。剣崎に差し掛かった途端、白波が一気に押し寄せ、ヨットが大きく揺れました。セーリングはとても不安定で、潮目の波と追い風が相まり、ヨットは加速していきました。船を安定すべく舵を懸命にとる父の姿が脳裏に焼き付いています。外洋の海の力強さ、雄大さを、身をもって体感した瞬間でした。

なんとか劔崎を抜けると、急にコンテナ船やタンカー、客船などの大型船の往来が激しくなってきました。目の前に現れたのは、浦賀水道航路です。今思えば、海上交通路の大動脈ともいえる航路における日本の物資輸送の大部分を担う、内航海運・外航海運を垣間見ることのできる船の往来でした。周辺には、多くの海上保安庁の船が航路を航行する大型船やプレジャーボートなどの警戒に当たっていたのを覚えています。そして先日、ミス日本「海の日」として、海上保安庁から「特別海上安全指導員」として任命していただきました。7月下旬には、安全指導員の方々と共に、東京港湾と横浜港湾エリアにて安全パトロール活動をさせていただきます。「海の事故0」を目指して、全国で活動されている 1500 名の安全指導員の方々と共に、プレジャーボートなどの安全の確保を全力で推進してまいります。

次に、航路を横目に見ながらセーリングを続け、横須賀沖に出ました。観音崎灯台が見えてきました。観音崎灯台は日本最初の洋式灯台であり、灯台の光りは19海里（約35km）先まで届くそうです。そして、横須賀沖には猿島が浮かんでおり、父が防衛大学校時代に遠泳の演習を猿島で行っていたという話をしてくれたのをよく覚えています。

無事、横浜ベイサイドマリーナに到着し、約4時間のセーリングを終えました。家族と海上で過ごす時間は、私にとって大切な宝物です。だからこそ、大切な家族を守るためにも、思い出を宝物とするためにも、安全を第一に考えて海と触れ合うことの重要性を肌で感じてきました。ミス日本「海の日」を拝命し、2級小型船舶免許を取得した今、その想いはより強くなっています。海は楽しさが詰まっている一方で、いつどのように変化するかを予測しづらい大自然でもあります。特に、剣崎で感じた外洋の海の力はとても強いものでした。

2級小型船舶免許を取得したこと、ボートやヨットに乗船し操縦する機会は増えています。大切な方々の命を守るためにも、乗船者全員のライフジャケット着用、そして海上保安庁の提唱する自船の安全確保3箇条である、

- ①発航前の点検の実施
②當時見張りの徹底
③救助支援者の確保

を欠かすことなく実施し、安全に留意しマリンライフを楽しんでまいりたいと思います。

これからも、海の楽しさだけでなく、海の安全や海洋国日本の魅力などについて精一杯発信してまいります。

「海員だより」



稻川 夏希（いながわ なつき） 東京都出身。大学4年生。法学部に在籍し、将来は弁護士、政治家を志している。特技は競歩とピアノ。趣味は筋力トレーニングとお伊勢参り。座右の銘は「3月の風と4月の雨が5月の花を咲かせる」